

2014年度日本質量分析学会

功 勞 賞**志田保夫氏**

志田氏の質量分析へのかかわりは大学卒業後の1970年に始まり、東京薬科大学において分析業務に携わりつつ学外の研究会に積極的に参加して質量分析学の研鑽を積んだ。そして、1980年にボウシユウボラの中腸腺抽出物にフグ毒を同定したことをきっかけに環境中の微量毒性物質のGC/MS測定を行って1990年には博士号（農学）を取得した。その後、若手質量分析関係者の教育にも熱心に取り組み、その成果物の一つが4名の共著者とともに出版した質量分析の入門書「これならわかるマススペクトロメトリー（2001年刊，化学同人）」である。また、志田氏が長らく在職した東京薬科大学からは志田氏の研究支援を受けた多数の研究者が輩出した。

学会では2003-2006と2009-2012の4期8年にわたって委員を務めるとともに、BMS研究会では2005年BMSコンファレンスの実行委員長として初めて本州以外（函館）での開催を成功させて新しい流れをつくった。

以上、志田氏が本学会の会員として長きにわたって質量分析に関する基盤的業務に従事し、また、質量分析技術進歩発展および普及に寄与したことは本学会功労賞に値するものであり、贈呈を決定した。